

会 告

第4回日本鉄鋼協会九州支部講演大会開催について

本会九州支部は日本金属学会九州支部と共催で、下記の通り講演会ならびに見学会を開催いたしますから多数御参加下さいますよう御案内申し上げます。

記

1. 講演会

日時 昭和34年9月10日(木) 9・30~15・35

場所 八幡製鉄所技術研究所講演室(八幡市枝光 西鉄・白川町下車)

演 題

- | | | |
|--|-------------|-------------|
| (1) 開会の辞 (9・30~9・35) | 日本金属学会九州支部長 | 谷 村 熙 君 |
| (2) 推進器用ニッケル, アルミニウム青銅について (9・35~10・10) | 三菱造船長崎造船所 | 植 田 昭 二 君 |
| (3) 鑄鉄ロールの事故とその対策 (10・15~10・05) | 日立金属工業若松工場 | 河 原 英 磨 君 |
| (4) 耐熱合金の時効とクリープ破断性の関係について (10・55~11・25) | 三菱造船長崎造船所 | 織 田 貞 四 郎 君 |
| (5) 製鉄研究の二, 三の問題 (11・30~12・00) | 八幡製鉄所技術研究所 | 和 田 亀 吉 君 |
| 中 食 (12・00~13・00) | | |
| (6) ユージンセジューネ法について (13・10~13・50) | 住友金属工業鋼管製造所 | 守 川 喜 久 雄 君 |
| (7) 映 写 「この天の虹」(13・55~15・25) | | |
| (8) 閉会の辞 (15・30~15・35) | 日本鉄鋼協会九州支部長 | 湯 川 正 夫 君 |

2. 見学会

日時 昭和34年9月11日(金) 9・00~15・30

見学工場 八幡製鉄所戸畑地区 (9・00~11・30)

住友金属工業小倉製鉄所 (13・00~15・30)

見学参加者は9・00時まで西鉄戸畑線泥田電停前に集合して下さい。

申込要領 8月25日までに所属, 職名, 氏名, 講演会 出, 欠 見学会 出, 欠明記のうえ参加費 100円
(中食費, 見学費) を添えて当支部あて御申し込み下さい。
なお参加費のみは当日会場にてお払込み願つても結構です。

八幡市枝光 八幡製鉄所技術研究所内

日 本 鉄 鋼 協 会 九 州 支 部

印度金属学会よりの招請について

来る 12 月 1 日より 5 日まで印度バンガロールにおいて開催される 印度金属学会第 13 回総会に参加方下記の通り招請がありました。本会会員で参加御希望の方は協会まで御申し出で下さい。なお同大会に論文の提出を歓迎する旨別途申し出でございましたので、有志の方は同学会 (The Indian Institute of Metals, 31, Chowringhee Road, Calcutta, India) 宛寄稿せられるようお勧めいたします。

記

The Thirteenth Annual Technical Meeting of The Indian Institute of Metals will be held in Bangalore from 1st to 5th December 1959. The programme will include a Symposium on "Structural Changes in Metals and Alloys" arranged in collaboration with the Department of Metallurgy, Indian Institute of Science, Bangalore 12. The Symposium is a part of the Golden Jubilee Celebrations of the Indian Institute of Science.

The 6th Metallographic Contest and Exhibition will also be held during this Session. In addition to the Technical Sessions, the programme will include plant visits and social functions.

The 8th Pandya Memorial Lecture will be delivered by Dr. S. Bhagavantam, Director of The Indian Institute of Science.

On behalf of the Institute, I invite you and members of your Organization to participate in our meetings. We shall welcome any members of your Organization who may be visiting India at that time. Further particulars and detailed programme will be sent to persons who are interested in attending these meetings.

鉄鋼技術講座発行について (再)

かねて本会において鉄鋼技術講座編集委員会を設け編纂を進めていました標記の書籍が、この程漸く第 1 巻の発行を見るに至りましたので御知らせ致します。

本講座は鉄鋼使用者に対して鉄鋼に対する認識を深めることを主眼とし、鋼材の製造法、特性、加工性、加工法等を説き有効適切な材料選択と合理的使法について全 6 巻に亘り講述したものであり、使用者のみならず現場作業にもよい参考書となりますのでお薦めいたします。

- | | |
|-------|---------------|
| 第 1 巻 | 製鉄製鋼法 |
| 第 2 巻 | 鋼材製造法 |
| 第 3 巻 | 鋼材の加工性と試験 |
| 第 4 巻 | 鋼材の加工 |
| 第 5 巻 | 鑄鉄の性質と加工 |
| 第 6 巻 | 鉄鉄および鋼材の規格と解説 |

なお会員に限り割引くことを地人書館と交渉しましたが、業者間の規約によりでき兼ねるとのことです。協会の負担において一割引とし、会員各位の御便宜をはかりたく存じます。ただし送料も協会負担と致しますので、その都合で全 6 巻または 5 部以上取りまとめたの御注文に限り割引致します。

割引での御注文は全 6 巻または 5 部以上に取りまとめたの上直接協会宛代金添え御申込み下さるよう御願い申し上げます。もつとも協会まで御足労願えれば一部にても割引いたします。

石炭利用技術会議の開催および論文募集について

近年石炭の需要量は相対的に減少しているが、わが国将来の産業の発展を考えればエネルギー需給における石炭の占める位置を正しく認識し（石炭問題に対する）抜本的総合施策を確立しなければならない。このための一助として、わが国石炭の賦存状況、性状等の基礎的問題から生産、輸送および消費の各分野にわたる最近の研究成果広く集めて問題の所在明らかにし将来の活用の見通しを樹てるため石炭利用会議が下記の通り開催され本会もこれを協賛することとなつた。つきましては科学技術的論文、会議参加者の募集を行つているので応募されるようお勧めします。

主催 工業技術院，日本動力協会エネルギー技術対策本部
後援 毎日新聞社
協賛 日本鉄鋼協会ほか 25 学協会団体
事務局 工業技術院調整部調整課（東京都中央区銀座東7の5）

開催期日 昭和 34 年 11 月下旬（4日間）

第1日 午前 開会式，懇親パーティ
午後 第1部門（石炭地質，石炭の組織，構造，分類，分析などの問題）討議
第2日 午前 第2部門（石炭の採掘，選炭，輸送，貯炭などの問題）の討論
午後 第3部門（石炭の燃焼，燃焼装置などの問題）の討論
第3日 午前 第4部門（石炭の乾溜，ガス化，抽出分解などの問題）の討論
午後 第1～第4部門より摘出された問題の総括
閉会式

第4日 見学会 石炭関係の工場，試験研究所

会場 東京都内（未定）

会議参加費 1名 1000円とする。懇親会出席者はほかに，1名 500円を申受ける。ただし論文提出者は懇親会費を要しない。

論文募集 （本会議では個々の論文の発表は行わない）

論文は一般より募集する。科学技術的展望，解説，予見を含む論文提出希望者は題目および和文概要（400字以内）を8月末までに提出。

和文概要提出期限 8月末

本論文提出期限 9月末

執筆要領 論文の構成は題目，概要，緒言，理論，実験，結果および考察とする。このうち不必要のものは省いてもよい。

1. 原稿単1ページの脚註に執筆者の勤務先（所属機関）の名称（和・英）および所在地を記入する。
2. 度量衡単位は原則としてメートル法を用いる。
3. 引用文献記載例 J. K. Brown, Nature, 175 (1955), 229
4. 写真は印画紙に焼けたもの（最大キャビネ），図面は墨入れしたもの（文字記号は鉛筆がき）を用いる。

会議参加者募集

予約希望者は郵便はがきに氏名，住所，勤務先，部課名，所属学協会名を記入して予約申込むこと 締切 8月末
本 申 込 予約申込者に9月中旬に送付する論文概要等に添付の申込用紙により10月末までに工業技術院調整部調整室（東京都中央区銀座東7の5）あて申込むこと
定 員 400名 満員次第締切